

7.講義「通訳サービス概論」

本プログラムでは、通訳案内士育成及び国際ビジネス現場で活躍できる通訳人材育成を視野に入れ、通訳サービスに求められる各分野について理解を深める。

講義とグループディスカッションの形式で、通訳案内士及び通訳サービスに求められる知識を習得させ、その後現場実習の形式で、より実践的な教育プログラムを実施する。教室での学習と現場での通訳案内及び通訳の実践練習を通じて、地域限定通訳案内士資格及び沖縄特例通訳案内士資格取得に向けた能力を強化する。

	講義内容	外部講師
第1回	オリエンテーション／通訳案内士とは何か	
第2回	沖縄県の地理・歴史・文化・経済	
第3回	日本（全国／沖縄）における外国人観光客の動向	
第4回	ホスピタリティにおける注意点（宗教・アレルギー）	
第5回	旅行の種類／行程表作成実習	
第6回	外国人観光客の交通手段／クルーズ船客対応	
第7回	宿泊施設・MICE における通訳の役割／通訳の種類	
第8回	救急救命基礎／医療通訳の現状と課題	
第9回	現場実習準備 1	
第10回	現場実習準備 2	
第11回	現場実習 1	同時通訳者
第12回	現場実習 2	
第13回	現場実習 3	
第14回	現場実習 4	
第15回	まとめ	

第2回 通訳サービス概論 担当：大城明緒

第2回は、沖縄県の地理・歴史・文化・経済がテーマでした。通訳ガイドをする上で、覚えておいたほうがいい、あるいは、説明ができるといいという内容と、説明時の注意事項などについて取り上げました。

<地理>

沖縄の位置、地勢、気候、植生、土壌についての解説と、実際のガイドの仕方や、英単語の説明を行いました。現在地の確認や行き先の確認などと関連づけるといいそうです。

<歴史>

沖縄の歴史には、4つのトピック（琉球王国成立、琉球処分、沖縄戦、本土復帰）があり、コース内容に応じて組み立てや比重を考えるといいそうです。特に、戦争のトピックについて、扱いや注意事項の説明があり、観光で戦争を取り上げる意味（平和への祈り）を意識するといったことでした。

<文化>

取り上げることの多い文化（シーサー、沖縄そば、お墓、エイサーなど）の紹介と、紹介の仕方を場所別に事例をあげて解説がありました。

<経済>

人口（約144万人、那覇市は約32万人）産業構造、農林水産業についての説明と最新データの見方について説明がありました。

<基地>

北部訓練場が返還されたことで、数字が変わったということもあり、日本にある米軍専用施設の割合（70.6%）、県土面積に占める割合（8.16%）、米軍専用施設数（31施設）など数字の把握と、道の駅かでな（嘉手納飛行場が一望できる）の紹介がありました。

まとめとして、何を説明するにしても、ポジティブに、平等性を確保して、お客様の反応を見ながら柔軟に、誠実に対応することが必要だということでした。

どうしても質問に答えられない時の対応の仕方についても説明があり、通訳ガイドに求められる柔軟性やコミュニケーション能力が分かりました。

その後、バス内から亀甲墓が見えた際「あの建物は何か」と質問されたらどう答えるかというテーマについて、グループディスカッションを行い、各グループの代表が実際にガイドになったつもりで説明を行いました。



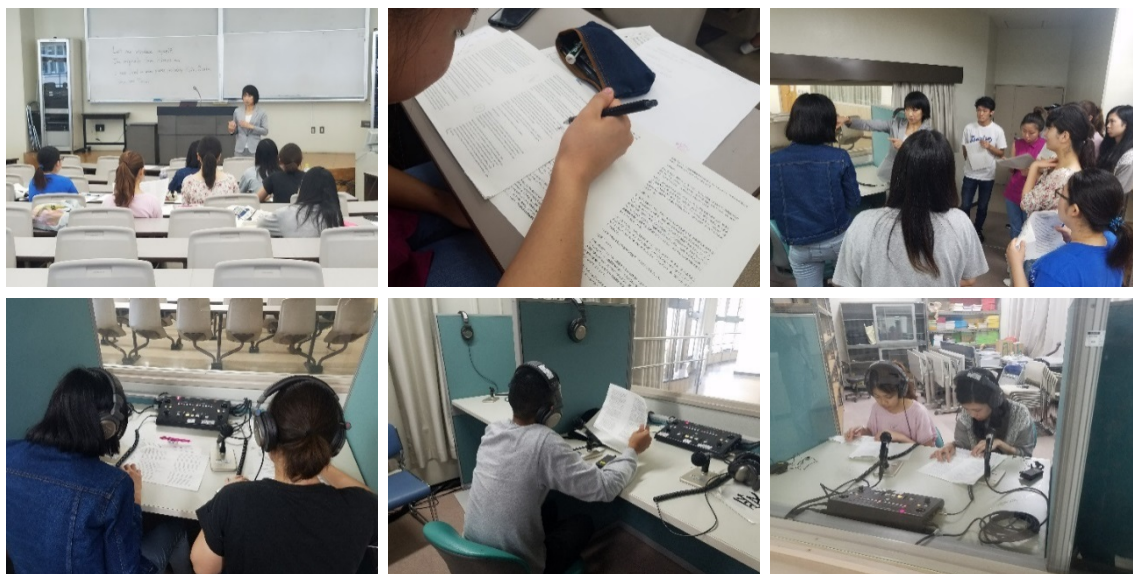
文責：観光産業科学部 宜志富知恵子

第 11 回 通訳サービス概論 担当：大城明緒

外部講師：同時通訳 津波真澄氏

今回は同時通訳実習を行いました。特別講師として、同時通訳者の津波真澄氏をお招きしました。同時通訳と逐次通訳の違いや同時通訳の仕方、注意事項などを教わり、本学の同時通訳ブースにて、実際に体験しました。

教材は、オバマ大統領のスピーチで、聞き取りやすいものの、それを瞬時に日本語に変換するという初めての体験でした。同時通訳は、流れ続ける英語のスピーチを聞きながら通訳をするため、途中で止まることができず、四苦八苦しながらの実習となりました。



文責：観光産業科学部 宜志富知恵子

第 12～14 回 通訳サービス概論 担当：大城明緒

講義 3 回分を使って、首里城にて通訳ガイド、酒造所にて逐次通訳の現場実習を行いました。首里城では、外国人観光客の集団を案内するという設定で、首里城内 11 か所でガイドをするポイントを設置し、事前にガイドすることなど準備をしていましたが、どの場所で誰がガイド役になるかは、当日その場で指名されるため、その場での判断を要求される場面もあり、緊張感もありました。

実際、お客様のグループを引率していると、どこに止まって説明をするか、周囲の人の流れ、日差し、暑さ、安全性、写真撮影ができる場所とできない場所の区別など、英語以外に気配り、心配りが必要なものがあるということが分かりました。

午後からは、咲元酒造を訪問し、通常の見学コースをその場で通訳をするという研修でした。逐次通訳なので、説明の方が区切ったところで、すぐに通訳をする必要があり、今回は研修ということである程度のところで説明の方に話を止めてもらい、学生が通訳をしました。実際は、事前に単語などは調べることはできても、その場で説明される内容は分からないため、かなり難易

度が高く、今回のように事前にある程度情報があつての研修でも、だいぶ難しい研修でした。



文責：観光産業科学部 宜志富知恵子